

主題： 「2001年2月9日にハワイ州オアフ島の沿岸沖で発生した
合衆国船グリーンヴィル (SSN722)と日本国内燃機関船えひめ丸間
の衝突の周辺状況に対する審問委員会による審理」

諸勧告

I. 衝突

1. 合衆国太平洋艦隊司令官がグリーンヴィルの艦長スコット・D・ワドル中佐を2月9日の彼の行為への引責の為アドミラルズ・マスト（司令官による行政的懲戒処分裁定）に送る事。彼のその日の怠慢から生じた深刻かつ苦痛な結果に留意する一方、彼の側の犯意あるいは故意の違法行為が不在のため、当委員会は軍法会議に反対との勧告を行なう。彼の諸行為は怠慢かつ不注意であり、指揮をする士官に期待される高い基準からのゆゆしき離脱を意味するもので有ったものの軍法会議をもって裁くことを是認するほどに言語道断なものではなかった。この勧告に達するにあたり、委員会はワドル中佐の20年間にわたる海軍及び国家に対する献身的で忠実な働きについても考慮した。
2. 合衆国船グリーンヴィルの新しい艦長が火器管制技術当直員パトリック・T・シークレスト一等海曹を2月9日の彼の行為への引責の為キャプテンズ・マスト（艦長による行政的懲戒処分裁定）に送る事。さらに追加として、シークレスト兵曹が火器管制技術当直員として次の航海での当直に立つ前に、再度その資格の認可裁定申請を行なわせる事。
3. 合衆国船グリーンヴィルの新しい艦長が副長ジェラルド・K・ファイファーを下士官当直員命令書に対する監督不行き届き及び有資格人員のみしか当直に立つことを許さぬ事の確保の不履行に対する引責の為諭告する事。
4. 合衆国船グリーンヴィルの新しい艦長が哨戒長マイケル・J・コーベン中尉を監督不行き届き及び当直に立った際の細部への注意の欠如の引責の為諭告する事。
5. 合衆国船グリーンヴィルの新しい艦長が先任海曹ダグラス・コフマン兵曹長を指揮系統への説得力ある支援の欠如、下士官当直員命令書の監督不行き届き、かつ有資格人員のみしか当直に立つことを許さぬ事の確保の不履行に対するへ引責の為諭告する事。
6. 合衆国船グリーンヴィルの新しい艦長がソーナー員長エドワード・マクギボニー等兵曹を不十分な当直任務遂行及び探知目標チームへの不十分な支援、又

主題： 「2001年2月9日にハワイ州オアフ島の沿岸沖で発生した
合衆国船グリーンヴィル (SSN722)と日本国内燃機関船えひめ丸間
の衝突の周辺状況への審問委員会による審理」

有資格人員のみしかソーナー室での当直を許さぬ事の確保の不履行に対して引責の為諭告する事。さらに加えて、マクギボニー兵曹がソーナー員長当直員として次の航海での当直に立つ前に、再度その資格の認可裁定申請を行なわせる事。

7。太平洋潜水艦隊司令官が有資格ソーナー員達のみがソーナー当直に立てる事を許可する旨を定めている大西洋潜水艦隊 (COMSUBLANT)・太平洋潜水艦隊 (COMSUBPACINST 5400.40A) 条、及び海軍標準準則 (NWP 3-21.22.3) 条の基準への遵守を確保する事。

8。太平洋潜水艦隊司令官が現在の「行動危機管理プログラム」の適切さについて検討する事。

9。太平洋潜水艦隊司令官がグリーンヴィルの衝突について艦隊に対して情報と訓練を提供する事。

10。太平洋潜水艦隊司令官が潜水艦小艦隊代将達及び彼らの幕僚達が非展開時訓練標準訓練周期の期間中に有意義な監督と客観的なフィードバックを彼らの潜水艦艦長達及び乗組員達に対して提供する能力及び手段について再調査する事。

II. 捜索及び救助活動

11。太平洋潜水艦隊司令官が潜水艦の広洋搜索・救助活動能力及びその諸要件についてタイプ司令官のリーダーと共に検討するための調整役を努め、かつ海軍作戦本部 (OPNAV)に対する適切な勧告書を作成する事。

III. 潜水艦隊及び合衆国船グリーンヴィルによる海軍訪問客体験航海プログラムの実施。

12。海軍の訪問客体験航海プログラムが引き続き支援される事。

13。太平洋潜水艦隊司令官が艦隊の広報活動担当士官を太平洋潜水艦隊の訪問客体験航海プログラムに関して適切な幕僚の監督及び指標の提供を怠ったことに対する引責の為諭告する事。

14。太平洋潜水艦隊司令官が民間人訪問客体験航海プログラムに関する「海軍広報活動部」の方針と指標の徹底的な再検討を行なうにあたり、海軍作戦本部及び情報主任との調整役を努め、かつ内部的に一貫性を持つ、明確にして、より特定的な新しい指標を発行する事。

主題： 「2001年2月9日にハワイ州オアフ島の沿岸沖で発生した
合衆国船グリーンヴィル (SSN722)と日本国内燃機関船えひめ丸間
の衝突の周辺状況への審問委員会による審理」

15。太平洋艦隊司令官が海軍作戦本部に対して訪問客体験航海プログラムの承認権威者はそれをタイプ司令官に委任することが出来るように勧告する事。

16。太平洋潜水艦隊司令が、タイプ司令官 (TYCOM) リーダーとの調整により訪問客体験航海に関して潜水艦行動の独特な性質を反映する公報活動指示書への変更を海軍作戦本部に対して勧告書を送付する事。

17。太平洋潜水艦隊の公報活動事務所が訪問者体験航海に関する適切な監督及び指標を艦隊に対して提供する事。

18。太平洋潜水艦隊が訪問者体験航海中にはどのようなデモンストレーションが行なわれるべきかについて適切な諸航行について検討する事。

19。太平洋潜水艦隊が訪問者体験航海には秘区分とされ、かつ相応しく無いものとされている航行深度及び速度の限界について艦隊に最強調する事。

20。太平洋潜水艦隊が訪問者体験航海経験に関するフィードバックを太平洋潜水艦隊中に普及させる正式な手段、もしくはそれらに関する情報を太平洋潜水艦隊中で分け合う正式な手段を確立する事。

IV. 2月9日の合衆国船グリーンヴィルの行動海域の適否

21。太平洋潜水艦隊司令官が三年ごとに合衆国沿岸警備隊及びその他の適切な政府部局と共にハワイの行動海域海上交通密度について検討する事。

22。太平洋潜水艦隊司令官が国家海洋行政局との調整により「潜水艦実験及び公試区域」という言及を国家海洋行政局の「ハワイからオアフ」海図 (#193 40) 及び他の軍人及び民間人海員達が使用している全航海図から取り除く事。

V. 潜水艦隊幕僚長の役割

23。太平洋潜水艦隊司令官が彼の幕僚長ロバート・ブランドヒューバー大佐を彼の職務のプロフェッショナルな遂行における怠慢、かつ2月9日の日の責務における怠慢の引責の為諭告する事。この諭告が、グリーンヴィルに乗船する以前に彼の幕僚長としての職務を適切に引き渡す行為における怠慢、潜水艦の行動深度及び速度に関する潜水艦隊の区分基準の強化における怠慢、かつ、潜水艦隊

主題： 「2001年2月9日にハワイ州オアフ島の沿岸沖で発生した
合衆国船クリーンヴィル (SSN722)と日本国内燃機関船えひめ丸間
の衝突の周辺状況への審問委員会による審理」

訪問者体験航海プログラムに関して適切な幕僚の監督及び指標の提供を行なうに
あたっての怠慢についてのものである事を、具体特定的に指摘して行なう事。

24。ブランドヒューバー大佐が彼の体験航海覚え書きを強化するか、もしくは
取り消すかのいずれかを行なう事。彼が強化すると決めた場合には、それを再検
討し直し、訪問客体験航海を含む全区分の航海に適切に確実に言及する事。

25。ブランドヒューバー大佐が幕僚士官が彼を継続して指揮を執る場合にはい
つも必ず太平洋潜水艦隊司令官代理の職務及び責務に関する徹底した説明を行な
う事。

26。太平洋潜水艦隊司令官が士官が継続して指揮を執る場合にはいつも必ず誰
が太平洋潜水艦隊司令代理であるのかを艦隊に対して明確に識別する事。

(署名)

ジョン・ナスマン
合衆国海軍中将
委員長

(署名)

ポール・F・サリヴァン
合衆国海軍少将
委員

(署名)

ティヴィッド・M・ストーン
合衆国海軍少将
委員

(署名)

イサム・オザワ
海将補
日本国海上自衛隊
非投票委員

公証

(署名)

ジョン・B・ナスマン
合衆国海軍中将
委員長

(署名)

ブルース・E・マクドナルド
合衆国海軍法務部、大佐
委員会弁護人